家庭教育力の強化を図る

学校・家庭・地域の連携を深めるＰＴＡ活動

小牧市立一色小学校ＰＴＡ

１　はじめに

本校は小牧市北西部に位置し、校区の北側が犬山市と接している。木曽川を水源とする２本の用水（木津用水・新木津用水）が流れる住宅街にあり、平成３０年度に創立５０周年を迎えた。現在の児童数は５１８名で、ピークとなった昭和５１年の１２２８名から徐々に減り、今年度は５５年の歴史の中で最も少ない児童数となった。それでも、全学年３クラス、特別支援学級４クラスの中規模校である。

本校の最大の特徴は､外国人児童の多さにある｡学校のすぐ西側に５街区１６棟からなる大規模な県営住宅があり､全校児童の２割弱にあたる１０１名が外国にルーツを持つ児童である｡全クラスに４～６名程度の外国人児童が在籍しており､共に生活をしている｡日本語習得が不十分な児童・保護者も多いが、様々な文化･生活習慣の違いを抱えながら共生を目指している。

【藤棚から一色小学校を望む】

２　研究への取組

（１）　研究のねらい

４年間に及ぶコロナ禍は、ＰＴＡ活動のみならず、様々な学校行事・地域行事に制約をもたらし、その「引き継ぎ」をも困難にした。また、児童数・家庭数が減少し、外国人家庭など遅くまで働いている保護者が多い本校では、ＰＴＡ活動・地域の活動に対して必ずしも協力的とは言えない状況もある。

子どもは､家庭や地域の愛情や温かさに触れることで情操を豊かにし、地域への愛着を深める。外国人家庭の多さ故の多文化の衝突や孤立化の中で、ＰＴＡ活動の充実を通して学校・家庭・地域の連携を深めることで、多文化共生と家庭教育力を強化し、子どもの健全育成を図りたいと考え、地域の実態に即して活動を展開していくことにした。

（２）　ＰＴＡの組織と活動の実際

本校のＰＴＡは、会長・母親代表（家庭教育委員）をはじめとする執行部と、保健厚生部・教養部・広報部・生活安全部の４部会から組織されている。各部ともいくつかの活動を抱えていたが、コロナ禍を機に、

子どもを介して関わる活動に注力できるよう活動を見直し、ＰＴＡ委員の負担軽減を図るとともに、「無理はないが意味のある活動」であることを実感でき、参加動機となるような活動にしていくようにした。令和５年度は、保健厚生部は学校保健委員会への参加、教養部はＰＴＡ花壇の整備、広報部は年２回のＰＴＡ新聞の発行、生活安全部は「あいさつ運動」「街頭事故防止活動」への参加と各地区での登下校の見守り活動を行っている。

また、本校ＰＴＡの最大の活動は、後述の「地域ふれあい活動」である。親子・地域のふれあいと連携を深めることを目的として、コロナ禍の４年間も、規模を縮小しながらも維持・継続してきた。

３　実践活動の概要

（１）　地域協議会との関わり

一色小学校区では、令和２年６月に地域協議会が発足し、地域の連携・共生を目的に活動を続けている。地域協議会の交流部では、校区の外れに「ふれあい農園」を作り、子どもたちと野菜作りや収穫体験会を行ってきた。また、「地域ふれあい活動」でも講座を受けもってもらい、ＰＴＡと連携して活動している。「ふれあい農園」で収穫した野菜が、講座に参加した子どもや家庭に配布されるので、楽しみにしている家庭も多い。

【ふれあい農園】

（２）　学校・家庭・地域との連携を深める取組

①　地域ふれあい活動

ア　概要

ＰＴＡが主催となり、毎年秋の学校公開日（令和２年度からは運動会）の午後に開催している。地域協議会交流部・スポーツ振興会・地域の方に講師をお願いして様々な講座を設定し、希望する子どもまたは親子が参加する。参加者は、親子・地域の人とふれあいながら、文化的・体育的な活動を楽しんでいる。

イ　実際の活動（一部）

o　№１ペアを決めよう

地域協議会交流部による講座。親子・友達などのペアでゲームやクイズを楽しみ、得点を競う。賞品として、先の「ふれあい農園」で収穫した野菜が配布された。

【ディスコン】

o　ボッチャ・ディスコン・ラダーゲッター

スポーツ振興会による講座。３つほどのチームに分かれて、東京パラリンピックで話題となったボッチャなどのスポーツを楽しむ。

o　炊き出し訓練

地域協議会が発足する前、地域防災部会が中心となって企画された。大鍋を使って炊き出しをして、みんなで食べる。コロナ禍で飲食を見合わせることになったことから、ここ数年は企画されていない。

o　クイリング

細長い紙を巻いてパーツを作り、組み合わせて花などにして、フォトスタンドを飾る。地域の方（民生児童委員・学校運営協議会委員）に講師をお願いした。

【クイリング】

o　サイエンスクラフト

元小中学校の先生で、小牧市の生涯学習市民講師にも登録されている方に講師をお願いし、科学マジックの実演や科学おもちゃ作りを楽しむ。

o　モザイクタイル

小さなタイルを並べて、板に固定して、コースターを作る。地域でモザイクタイル教室を開いている方に講師をお願いしている。

【サイエンスクラフト】

ウ　振り返り

一色小ＰＴＡの最大の取組として、コロナ禍にあっても規模を縮小（講座数・１講座あたりの参加人数）して継続してきた。企画・運営するＰＴＡ役員・委員が不慣れなこともあり、うまく進行できないところもあったが、講師・学校とも協力しながら、また、毎年の引継・申し送り事項を参考にしながら実施してきた。参加者からは「楽しかった」「またやりたい」「違うこともやってみたい」などの声が聞かれた。

今年度は、講座数を増やし、より多くの子どもたちが参加できるようにした。

②　登下校の見守り・街頭事故防止活動

ＰＴＡ生活安全部（地区委員）・パトロールボランティア・地区の当

番・交通委員が、毎朝交差点に立ったり登下校に付き添ったりしている。また、年に３回、事故防止活動を行っている（内２回は、全市をあげての「笑顔でさきがけあいさつ運動」を兼ねて実施）。児童の登校時刻に合わせて、ＰＴＡ生活安全部・区長・交通委員・教員が、主要交差点５カ所に立って声かけを行っている。

【街頭事故防止活動】

こうした活動によって、一色小では登下校時の大きな交通事故は起きていない。令和３年９月には、愛知県警察本部と愛知県交通安全協会から、交通安全優良校としての表彰を受けることができた。また、ＰＴＡ生活安全部（地区委員）を中心とする日々の見守り活動は、通学団で登校できない子どもの安全にも関わることができている。

③　あいさつ運動

ＰＴＡ全委員が交代で、月に１～２回、児童会の生活安全委員や教員とも協力しながら、登校時に朝のあいさつ運動を行っている。

４月にはなかなかあいさつができなかった子どもたちが、次第に元気よくあいさつができるようになっていく姿を見られるのは、活動の喜びでもある。

４　おわりに

日々の活動や「地域ふれあい活動」を通して、学校・家庭・地域の連携を深めていくことで、子どもを軸にした家庭や地域のつながりができ、家庭教育力の向上や子どもの健全育成に寄与することができた。また、地域の共感的理解を深める一助となった。これらの成果は、子どもの健全育成を図るうえで、欠かせない土壌となっていく。ＰＴＡ委員にとっても、活動に向けてみんなで話し合い、企画・運営していくことは、自らの家庭を見つめ直し、我が子の育ちを考えるよい機会となった。

両親とも仕事をもつ家庭が増え、つながりが希薄になりがちな地域にあって、子どもを介して、より「無理はないが意味のある活動」にしていくことは必須である。ＰＴＡ活動の負担軽減を図りながら、参画意識・連携意識が高められるよう、活動の精選と内容の充実を図っていくことが、今後の課題となるだろう。

今後も、家庭の教育力向上の先の多文化共生社会を見据え、活動を模索していきたい。